

※結果分析(○できている ●できていない)

〈学力調査〉

【国語】

- 話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかを問う問題では、正答できている児童が全・県の平均を上回った。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりして、自分の考えを書き表す設問では全・県の平均を上回った。しかし、無回答の児童も1割程度いた。
- 資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題には、課題がある。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する事には課題がある。

【算数】

- 直方体の見取図については8割以上が正答できていた。
- 数量の関係を口を用いた式に表すことは9割以上が正答できていた。
- 距離が同じなら時間が短い方が速いという概念を記述することには課題がある。また同様に、二つの折れ線グラフから必要な情報を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述することにも課題がある。このように記述する問題での課題が大きく、無回答の児童も増える。
- 球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉えて解くなど、既習事項を関連付ける問題に課題がある。

〈学習状況調査〉

- 「国語や算数の勉強が好き」「授業の内容がよく分かる」と解答した児童が多いの数値が高い。これは、授業の主役は子どもたちであることを意識し、主体的に学ぶ授業作りに取り組んできた成果と言えるが、学力調査の結果に十分反映できているとは言えない。
- 自分には、よいところがあったり、よいところを認めてくれたりなどの数値が低いことは課題である。

※学校としての対応・目標

- これまでの取組の中で以下の取組が有効であったと考えられる今後も継続して取り組む。
 - ・国語: 字数制限を意識した作文や自分の思いを必ず書くこと。
 - 単元計画を児童と立てたり、課題のイメージ化を図ったりするなど、子どもたちが見通しをもって課題解決をすること。
 - ・算数: 文章の表している状況をつかませる、立式したことを図に表す、図を式で表す等の往還を行うこと。
- 課題に対しては以下のように取り組む。
 - ・国語: メモを基に文章を構成する、書いたことを推敲し合う、自身の考えを再考し見直すといった場の設定をすること。
 - ・算数: 系統性を軸におき、情報をどう読み取り、どのように解釈し、表すのかに焦点を置くこと。
- 全体的な授業及び授業外で以下のように取り組む。
 - ・課題に対する考え方や解き方の共有や言語化、基礎学力の向上に向けた取組の精選と実践を行うこと。(レディネスチェック・タブドリライブ等を活用し定着を図る)
 - ・「聴く力」の育成に向けた取組や、問いをもたせる・大きな問いをもたせる授業づくり(児童の反応の見取り・問いや指示の形で求める)。
 - ・児童の反応をつなげる・根拠を明確にして書かせる)を組織的・継続的に実施すること。
 - ・「振り返り」の統一を図る、授業外では自主的な活動を行い「自他の振り返り」を行うなど、学び方のメタ認知や協同的に学んだり、活動したりすることのよさや、他から認められ場において、自己肯定感や自己調整力を高めること。
 - ・授業にと家庭学習をつなぐこと、自己調整力を高める週末課題や、復習や予習や興味・関心に関わる自主学習を行うこと。
 - ・結果だけでなく、課程を認める取組をより意識的に行う。また、一人ひとりの良さを認め合える集団作りを行事等の特別活

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、
よろしく願いいたします。